

関係法規等

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法、地方公務員法
- ・練馬区立学校の管理運営に関する規則
- ・学習指導要領
- ・東京都教育委員会 教育目標
- ・練馬区教育委員会 教育目標 他

学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身共に健康で知性と感性に富み、調和のとれた人間性豊かな児童の育成と、将来、国際社会の中で信頼と尊敬を得る日本人の育成を目指して次の目標を設定する。

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 根気よくやりぬく子
- ◎元気な子

児童の実態

- ・全体的に明るく素直である。
- ・指示を受け止め行動できる子が多い。

教師の願い

- ・学習・生活の規律を定着させたい。
- ・豊かなかわり合いを通し、表現力や自己肯定感を育成したい。
- ・運動の意欲や体力の向上を図りたい。

保護者・地域の願い

- ・児童が楽しく安心して通える学校になってほしい。
- ・基礎・基本を定着させてほしい。
- ・児童が地域への関心をもち、143周年を迎える学校や地域を大切に思う素地を作ってほしい。

目指す学校像

「和」と「活力」にあふれる学校

- (1) 児童相互、児童と教職員、職員相互に温かいつながりがある学校
- (2) 学習や諸活動への意欲を高め、考える力や協働・思いやりなどを身に付ける学校
- (3) 運動に親しみ体力向上や健康・安全への関心・意欲を高める学校
- (4) 地域・保護者と連携し、地域社会の核の一つとなる学校

各教科の指導の重点

- ・基礎・基本を重視し、個に応じた指導、評価を生かした指導、習熟度別指導の充実を図り、児童一人一人に確かな学力を身に付けさせる授業を展開する。
- ・基礎基本の確実な定着のために授業時数の確保、指導内容の精選及び重点化を行う。
- ・石小スタンダードを用いて、学習習慣の定着の素地を全校で共通に育成する。
- ・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の伸長に努める。

本校における「確かな学力」

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、その他の能力
- ③ 主体的に学習に取り組む意欲や態度

特別活動の指導の重点

- ・望ましい集団活動を通し、よりよい学校生活や温かい人間関係を築こうとする自主的実践的な態度を育成する。
- ・石小スタンダードを用いて、学級活動の充実を図り、全校で共通に指導する。
- ・「なすことによって学ぶ」活動を通して自主的、実践的な態度を身に付けられるようにする。
- ・2学年合同遠足（1・2年）や異学年交流等、豊かな関わり合いの機会を設けるとともに、思いやりや役割意識、自己の成長の自覚を促す場とする。

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・探究的・協同的な学習を中心に、児童が主体的に活動できるような単元を設定し、4年間を通して系統的・発展的に育成していく。
- ・以前の全国大会発表の成果を踏まえ、地域の「財」や地域の人材リストを活用し石神井の地域の特色を生かした学習を展開する。

石小スタンダードに示された基礎・基本の定着

石小スタンダード（学習・体育・学級活動・生活指導）

生活指導の重点

- ・基本的生活習慣を身に付け、規則正しい学校生活を送ることができる児童を育てる。
- ・石小スタンダードを用いて、生活習慣の定着を全校で共通に育成する。
- ・特別支援校内委員会と連携を図る。

道徳教育の指導の重点

- ・道徳的心情、判断力、実践力を高めるとともに、人権尊重、生命尊重の精神や自尊感情を育てる。
- ・学校行事、教科、特別活動、生活指導との関連を図り、自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識を育む指導を推進する。

教師の構え

- ・環境整備
- ・教材・教具の準備
- ・評価計画作成
- ・学習の流れの確認（発問、児童の反応）
- ・児童の理解を深める指導法の工夫
- ・時間の厳守
- ・児童の思いや発想を大切にした授業展開
- ・板書の工夫
- ・児童の学習内容定着の確認

体力向上を目指す指導の重点

- ・新体力テスト実施の分析を生かし、体育の授業改善を図る。
- ・石小ギネスおよび全校によるカードを使った縄跳び・マラソン・鉄棒月間の実施、30分休み時間の確保等運動の日常化を推進する。
- ・保健食育関連集会等の機会を活用し保健・食育指導の推進を図る。

本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味を喚起するような導入の仕方や教材教具の工夫をする。 ・習熟度別指導、学年合同授業ゲストティーチャーによる授業等、学習形態・指導方法を工夫する。 ・校内研究との関連を図り体育の指導力向上を目指す。また、児童相互の関わり合い学び合う力を伸ばすよう工夫する。 ・生活科・石小タイムの時間を中心に、地域の中で生きる力を育み、自ら学ぶ探究的な学習を推進する。 ・発展的な学習、補充的な学習を取り入れる。また、繰り返し学習を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間の弾力的な運用を行い、基礎・基本の確実な定着とともに、思考力や表現力を伸ばす学習の充実を図る。 ・長期休業の前後については、通常の授業を行い、授業時数を確保する。 ・言語活動の充実の推進のために、隣接する石神井図書館、図書ボランティア等と連携を図り、学校図書館の整備、情報収集・選択・活用能力を育成する。 ・生活科・石小タイムの成果を家庭・地域へ発表する機会を設定し、児童の地域理解や、学習成果の確認、次年度の学習の見通しにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「互いに認め合い、進んで運動する子」を研究主題とし、運動への意欲や友達と関わろうとする気持ちを高める指導を研究する。 ・年6回の研究授業やミニ研修会を通して研究を進める。 ・楽しく運動ができるよう、魅力ある運動の場を設定し、指導を行う。 ・校内研究との関連を図り児童同士が関わり合いながら活動できる学習内容を設定する。 ・3年次までの教員を中心とした「若手研修会」を月1回程度開催する。若手の授業力・指導力の向上を図るとともに講師となる中堅教員の指導力向上も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図り、毎時間のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための評価と指導を工夫する。（名簿を活用した評価、机間指導による一人一人への支援、評価情報の交換等） ・通知表「あゆみ」の評定規準を明確にし、全学年で共有し評定する。 ・学習や生活について、児童一人一人の成長を振り返りカードに記入し、個人面談等で保護者に伝える。 ・専科打ち合わせの時間を設定し専科と担任で打ち合わせをする。指導や評価の共有化を図るとともに、多面的な評価の充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・石小タイム（総合的な学習の時間）を中心に石神井公園・ふるさと文化館など地域の自然環境や公共施設を活用したり、地域の方から話を聞いたりし、地域に学ぶ学習活動を計画的に行う。 ・図書ボランティアや安全安心ボランティア、放課後事業スタッフなどと連携を図り、児童が安全に楽しく過ごせる環境の整備を行う。 ・年9回の学校公開および道徳授業地区公開講座を実施し教育活動を公開する。 ・保護者アンケートや年3回の学校関係者評価でいただいた保護者や地域の声を、教育活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育9年間を見通した小中一貫教育の推進に向け、石神井中学校および上石神井北小学校とともに、連携研究の成果を定着させていく。 ・小中一貫教育実践校の研究の成果と課題から学び、地域の児童生徒の課題を把握し課題改善カリキュラムの作成を行う。 ・教科等分科会（国語・算数・音楽・体育・外国語・道徳）での研究を中心に、小中連携に関する合同研修会での連携等も行い、小中一貫教育の可能性を広げる。

教科	1学期内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読解では、叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることはできるが、登場人物の気持ちを深く考えることに関しては、個人差が大きい。 ・説明文は、内容を読み取ることはできるが、段落構成に着目して段落ご役割を考えたり、要旨をまとめたりすることについては、苦手としている児童が多い。 ・漢字学習に意欲的に取り組む児童が多い。80%以上の児童が新出漢字を正しく覚えることができているが、その他の児童は前学年までの漢字の定着も図れていない。 ・読書については、全体的には読書が好きな児童が多いが、意欲に個人差が大きい。好きな子は、様々なジャンルの本をたくさん読んでいる。今後も読書時間などの機会に本に親しませるような工夫も考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」については、短話の内容を理解することはできるが、話の内容が複雑になると正しく聞き取ることができない。「話す」ことについては、個人差が大きく発言を苦手としている児童は、自分の考えを伝えることができていない。 ・文章を書くことに対する意欲は低い。書き始めると自分の思いを書くことができる。相手や目的に応じ適切に伝えるように書くことに課題がある。 ・「読む」ことについては、文章全体の意味を正しく理解することはできる。叙述をもとに登場人物の気持ちを考えたり要旨を捉えたりすることは、個人差が大きい。 ・「言語」については、大体理解しているが十分に定着しているとはいえない。覚えた漢字も日頃の文章の中で使うことができていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都学力調査の結果では、教科の内容に関する正答率は71.3%で、東京都の正答率を4%上回っている。読み解く力に関する内容については、66.7%で東京都の正答率を5%下回っていて、基礎的な内容は身につけているが、長文を読解する力については課題がある。 ・教科の内容については、全ての項目について東京都の平均を上回っている。「知識・理解（言語）」は、5.4%、「技能（書く）」の項目は、7.2%、「思考・判断・表現」は、0.5%「読む」は、1.3%上回っている。特に、言語事項については、主述の関係、修飾する言葉についての理解が低いため、文章の中での語句と語句との関係を理解できるようにしたい。 ・関心・意欲・態度の項目は90%と、東京都の平均を4%下回っている。書くことに関して、興味をもって自主的に学習に向かう事ができる児童とそうではない児童の差が大きい。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「体積」の学習では、1単位量のいくつかによって量を表すことが十分に理解できておらず、機械的に公式に当てはめて答えを求めようとする児童が見られた。また、1cm³、1m³、1ml、1L、1klなどの量のイメージをもつことが不十分で単位を変換することが困難な児童もいる。 ・「小数のかけ算」は比較的好くできていたが、「小数のわり算」になると、小数点を移動する意味の理解が不十分であったり、移動した位置を見失ってしまったりして、最後まで正しく計算することが困難な児童がいた。 ・「比例」の学習では、基本的な考え方はおおむね理解できていた。しかし、文章問題などでは、比例の考え方を使得って解くとよいのだということがよくわかっていない様子も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都学力調査の結果では、「思考・判断」については5%、「知識・理解」については、3%東京都を上回っていたが、「技能」・「関心・意欲・態度」については、ほぼ東京都と同じ程度であった。 ・小数のかけ算やわり算などの技能は、だいたい身に付いてきているが、時間があくと忘れてしまったり同じミスを繰り返したりする傾向が見られるので、反復して練習を積む必要性を感じる。 ・上位グループの中には、いろいろな考え方で解こうとしたり、発展問題などに意欲的に取り組もうとする児童も見られるので、そのような子供たちに授業の中でどのように力を伸ばしていくかを考えていく必要もあると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「図形」の学習の様子をみると、理解はできているが、コンパスや分度器といった道具の扱い方が不得手であるため得点がとれない子もいる。道具の扱いについては、経験を積むことや道具の特性を理解させることなども必要かと思われる。 ・小数のかけ算やわり算などの練習では、根気よく継続して練習し力をつけていこうという意欲が足りない児童も見られ、基本的な力がしっかりと身につけていなかったり、注意不足によってミスをしてしまったりする様子が見られた。 ・東京都学力調査の「読み解く力に関する内容」では、「取り出す力」「読み取る力」「解決する力」のどの項目も東京都より上回ることができていた。数学的に考えたり、様々な場面で算数の力を活用したりする力は育ってきていると考えられる。

学力調査結果等を踏まえた内容別・観点別の分析 6年生

練馬区立石神井小学校

教科	1学期前半内容別指導の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別・学力調査観点別のクロスの分析
国語	<p>・積極的に発言したり、相手に説明や報告したりする活動については能力に個人差がある。こうした活動を意図的に取り入れ、授業を工夫する必要はある。</p> <p>・物語教材で、登場人物の相互関係や心情、場面の様子を読み取ることは概ねできている。</p> <p>・説明文では、文章に書かれている内容、話題、理由や根拠となっっている内容、構成の仕方や巧みな叙述について、読み取ることは概ねできている。</p> <p>・本を読み、推薦の文章を書いたために、キヤッチコピーを考えた。この構成を考えたりするときは、意図的に取組んで引用して自分の考えを図表には苦手な児童もいる。</p>	<p>・「話す・聞く」では、事物や人物を推薦したり、それを聞いたことなどはできている。しかし、話し手としての意図を捉えたり、話の構成を工夫したりすることは十分にできない。</p> <p>・「書く」では、条件（字数や表現）に合わせて自分の考えをまとめ、構成や表現を工夫して書くことが、苦手な児童もいる。</p> <p>・「読む」では、物語の登場人物の関係を捉えたり、心情を読み取ったりすることはできているが、要旨を捉えることについては苦手な児童も多い。</p> <p>・「言語」では、漢字の読み書きは、個人差が大きい。また、学習は十分ではない。</p>	<p>・学力調査の結果では、国語Aの平均正答率は77.3%、国語Bの平均正答率は58.8%で全体的には高い数値であったが、A、Bで比較すると国語Bの正答率の方がかなり低い正答率であった。</p> <p>・最も正答率が低かったのは、国語B問題の記述形式の「書くこと」であった。必要となる内容を整理して書くことに慣れること、目的や意図に応じて必要な内容を整理して書く力を身に付ける必要がある。また、説明する力、的確に表現する力をつけるためには、国語科等の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要であると考えられる。</p> <p>・国語B問題の「読むこと」の領域で、話し合いでの発言の意図を捉える問題の正答率が、わずか41.1%にとどまった。物語の内容や、説明文における筆者の意図を捉える学習の指導方法を工夫する必要がある。</p>
算数	<p>・全体的な傾向として、数や計算、数量関係については概ね理解している児童が多い。図形を扱った内容についても概ね理解している。しかし、小数や複雑な計算や、円の面積など少しくなり複雑な計算になると、ミスが多くなる傾向がある。</p> <p>・角柱の体積や円の体積については、既習内容が習得しきっていないためか、解決に時間がかなり苦手な児童も多い。</p> <p>・分数の乗法と除法の計算については概ねできているが、説明の仕方や立式の意味について説明したり、言葉や図、式、数直線を用いてまとめることは十分ではない。</p>	<p>・「数量や図形についての知識・理解」では、概ね理解することができている。</p> <p>・「数学的な考え方を立てて体系的に考えること」や「言葉や数、式、表、グラフなど様々な表現方法を使って表現したり説明したりする力は全体的に不十分である。</p> <p>・「数量や図形についての技能」では、整数・小数・分数の基本的な四則計算は、概ねできていない。図形や立体図形については、面積や体積を求めたりする個人差がある。</p>	<p>・学力調査の結果では、算数Aの平均正答率は82%、算数Bの平均正答率は50%で全体的には高い数値である。しかし、算数Aの結果から知識は概ね理解している。児童が多い一方、算数Bの活用問題に対しては、これまでに学んできた多様な考え方を生かして問題を解決することは、全体的に苦手な児童が多い。</p> <p>・最も正答率が低かったのは、算数Bの活用問題で、割合の意味を捉えその理由を説明する記述問題の正答率がわずか14.7%にとどまった。割合の意味を理解し、それを自分の言葉で説明する力を付ける必要がある。</p> <p>・「数量関係」の領域における平均の考えを活用して平均の求め方を説明する記述問題は、正答率がわずか21.1%にとどまった。普段の学習の中で、説明する場や話し合う活動を設け、児童が実感をもって理解できるようにすることが必要であると考えられる。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	○拗音や促音が混ざった言葉や、「は・を・へ」の助詞を正確に書けるよう指導したが、まだ十分定着していない。 ○聞くことに関して、聞き方や態度などを指導したが、十分定着していない。	○視写や作文を繰り返す行なうなかで、正しい文字や言葉のきまりを指導する。 ○話の聞き方について継続的・日常的な指導を重ねるとともに、聞いたことの内容を確かめたり、伝えたりする機会を増やす。	(補) 拗音や促音が混ざった言葉や、「は・を・へ」の助詞を使った文のワークシートを用いて指導する。教科書教材を活用し、お話を聞き、話すこと、聞くことに対する興味、関心を高める。 (発) 絵日記等を継続して行い、定着を図る。読んだ本の内容を伝えたり、朝の会でスピーチをしたりするなど機会を捉え、よい話し方や聞き方への意識を高める。
2年	○かぎの使い方、カタカナや新出漢字を文や文章の中で使うことについて指導しているが、まだ十分に定着していない。	○短作文を繰り返す行なうなかで、正しい使い方を確認し、作文の中で正しく使えるよう指導する。 ○学習した漢字を確認し、文作りの中で使用できるように指導していく。	(補) 日常的にノートや作文等で添削・指導を行ったり、繰り返しカタカナや漢字練習をさせたりする。 (発) 学習した漢字でも特別な使い方の漢字や似ている形の漢字などを取り上げ、興味を広げる。
3年	○文章の内容の中心や、場面の様子がよく分かるように音読する指導を継続しているが、課題を明確にして読み取ったり、主人公の行動を分析して記述をまとめたりすることは十分定着していない。 ○新出漢字の読み方や使い方、その漢字を使って文を作ることを継続して指導しているが、十分に定着していない。	○叙述の中心となる事項や、場面の様子、登場人物の心情について話し合う場面をもち、その成果をノートやワークシート等にまとめる時間を設定する。 ○練習や確かめの小テストを繰り返し行ったり、漢字を使った文作りを意図的に入れたりして指導する。	(補) 文章の内容の理解を深められるよう、サイドラインの引き方や書き込みのポイントを指導し、話し合いや文章を書く際に活用することを促す。 (発) 情景を想像し、叙述に即した場面の移り変わりを想像しながら読めるよう、いろいろな本を読む時間を確保する。 (発) 習っていない漢字でも辞書を活用して読み方や意味などを調べ、言葉に対して興味を広げる。
4年	○文章の構成や筆者の願いを考えながら説明文を読み進めていくことが不十分で、課題としている。 ○新出漢字の読み方や使い方、既習漢字を使って文を作ることを継続して指導しているが、十分に定着していない。	○説明文の構成を図式化させることにより、段落相互の関係を明確にし、文章の読解と合わせて指導していく。 ○漢字練習や確かめのテストを繰り返し行ったり、漢字を使った文作りを意図的に入れたりして指導する。	(補) 今までに学習した説明文を比較したり、別の説明文を紹介したりしながら、説明文を読み進める方法に気づかせるようにする。繰り返しドリルやテストを行い、漢字を定着させる。 (発) 筆者と自分の考えを比較し、発表し合うことにより、多くの考えを出し合って学び合いの場とする。辞書活用の習慣化を通し、漢字や意味などを自主的に調べ、言葉に対しての興味を広げる。
5年	○目的に応じて、要旨をとらえ自分の考えを明確にしたり、書いたりする指導が不十分で、課題としている。 ○新出漢字の読み方や使い方、その漢字を使って文を作ることなどを学習の課題としている。	○目的に応じて、本や文章を比べて読んだり、効果的な読み方を工夫したりして指導し、書いて振り返るようにする。 ○繰り返し新出漢字の学習を行うようにし、漢字を使っての文作りを指導する。	(補) メモをとる習慣を継続して指導し、内容の理解を向上させる。また、小漢字テストの時間を作り学習の定着を図る。 (発) 日頃から読書に限らず、新聞や雑誌、パンフレット、インターネットのホームページなどから情報を得て、様々な資料が活用できるよう工夫する。感想・まとめを書く時間を確保する。
6年	○新出漢字などを覚えても、その漢字を実際に使いこなすことが十分にできていない。 ○自分の考えをまとめ、聞く人にわかりやすく工夫して発表する場面の指導が不十分である。 ○経験したことや考えたことをまとめる時、表現を工夫したり推敲したりしながら作文を書かせる場面が少ない。	○学習した漢字は、作文だけでなくノートやワークシートなど他教科でも日常的に使うように指導する。 ○グループの中や全体の前で発表する場面を意図的に設けるようにし、その場でよりよい話し方を指導する。 ○年間に数回程度、表現に重点をおいた作文を書かせる計画を立て、推敲することによってよりよい作文に仕上げるようにする。	(補) 漢字練習や小テストを継続的に行い、定着を図る。 (補) 4～5人の少人数での話し合いの機会を多くとり、発言・発表に慣れさせる。 (発) 発表会、討論会などの発表の場を多くして、人の話を意識して聞くような活動を取り入れていく。 (発) 「ねりまの子ら」「新聞記事」などを随時紹介し、よい表現を意識化し、自分の作文に取り入れるようにする。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
3年	<p>○屋上からの観察や学区探検、社会科見学で学んだことを中心に授業を進め、児童は関心をもって取り組んでいるが、学んだことから課題を設定し、それを追究してまとめるような学習では個人差が大きい。</p> <p>○地図や写真などの資料から、必要な情報を読み取って活用する方法の指導が不十分である。</p>	<p>○授業の中で個々に課題をもち、追究しながら学習を深めるような学習経験を多く得られるように、より見通しをもった単元計画を行う。</p> <p>○見学後のまとめの方法（レポートや新聞形式など）やそのポイントを教え、今後活用できるように習得を図る。</p> <p>○地域の学習材についての教材研究をし、課題に適した中心となる資料（写真等）を準備する。</p>	<p>(補)用語、資料の見方などが一人一人に身に付いているか、ノートやワークシート等を確認し、確実な理解を図る。</p> <p>(補)地図や地図記号、学習したことをまとめたものを身近な場所に掲示する。</p> <p>(発)課題を追究する際の児童同士の情報交流や、学習の成果を発表するような機会を設定する。</p> <p>(発)地域や社会の変化に対応した新しい資料を教材化していく。</p>
4年	<p>○施設見学や体験学習を取り入れることにより、興味関心をもって学習に臨むことができたが、自分の生活と照らし合わせながらまとめていくことは課題である。</p> <p>○図やグラフ、写真などの資料から、必要な情報を読み取る資料の見方の指導が不十分である。</p>	<p>○ICT機器などを活用し、資料から分かることや見方を指導する。</p> <p>○自分たちの地域に合わせた単元計画を立て、一人一人が明確な課題をもてるよう教材研究をする。</p> <p>○学習したことをリーフレットや新聞形式など、さまざまな形式でまとめるよう指導する。</p>	<p>(補)資料活用の技能が身に付いているか、ノートやワークシート等で確認し、確実な理解を図る。</p> <p>(発)自分たちの地域や生活と深く関わりがあることを考えて学習できるよう教材の作成を行う。</p> <p>(発)学習成果を日常生活に生かせるようにする。</p> <p>(発)児童の経験を把握し、その経験を生かして学習できるよう授業を構成する。</p>
5年	<p>○児童が強く興味をもつような導入資料を用意し、疑問や知的好奇心が持続、発展する授業をすることが課題である。</p> <p>○学習対象が身近な地域から、日本全体や世界に広がるため知識の差が大きい。</p> <p>○絵や写真などの資料から何が読み取れるのか、資料の見方の指導が不十分である。</p>	<p>○ICT機器や掲示物を使用して、課題に適した中心となる資料（特に写真、視聴覚資料）を準備する。</p> <p>○学年で教材研究をし、教材を共有化していく。</p> <p>○実物や体験的な学習を充実させていく。</p> <p>○作成、収集した資料の保管場所を明確にし、次年度以降も使用できるようにする。</p>	<p>(補)地図やグラフなどの資料の見方を丁寧に指導する。</p> <p>(補)視聴覚教材や具体物などを準備したり、ゲストティーチャーの話の聞いたりすることで興味をもって学習できるようにする。</p> <p>(発)児童の経験を把握し、学習したことをまとめる作業として、ノートの記録、白地図や新聞などを工夫し学習の定着を図る。</p>
6年	<p>○歴史に関する既存の知識や社会科的な用語についての知識の差が大きい。特に、歴史に関係した言葉を正しく理解させることが課題である。</p> <p>○絵や写真などの資料から何が読み取れるのか、資料の見方や活用の仕方が不十分である。</p> <p>○ノートの取り方に個人差があり、課題からまとめまでの流れがわかるノート指導が不十分である。</p>	<p>○日本の歴史に興味をもたせるために、疑問や関心をもたせるような資料を準備する。</p> <p>○家庭で教科書の音読をすることで、社会科的な用語に慣れ親しんだり正しく読んだりするようにする。</p> <p>○じっくり資料を読み取る時間を確保し、わかったこと話し合ったり、読み取ったことを確かめたりするようにする。</p> <p>○視聴覚教材などの資料を充実させていく。</p> <p>○「めあて」から「まとめ」までのノートの取り方のモデルを提示する。</p>	<p>(補)用語、資料の見方などが一人一人に身に付いているかをノートやワークシートなどで確認する。</p> <p>(補)社会科音読カードを作り、用語や社会的事象に慣れ親しむようにする。</p> <p>(発)学習したことをまとめ、さらに興味関心をもって調べる作業として、社会科新聞を作成させ、学習の定着を図る。</p> <p>(発)社会の変化に対応できるように新しい資料を準備する。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	<p>○20までの数の計算を早く正確に行うようにする指導が十分ではなかった。</p> <p>○「ちがいはいくつ」で、求差の場面を減法の式に表し、結果を計算できなことを徹底させることができなかった。</p>	<p>○児童がより理解しやすい場面図を提示する。</p> <p>○操作や活動を多く取り入れた指導</p> <p>○同じ内容の問題でも数値などを変えて、具体的な場面、半具体物による操作場面や数量を、抽象的にとらえる場面を設定する。</p>	<p>(補) ブロックを使い、算数的活動を取り入れたゲームなどで楽しく習熟を図る。</p> <p>(補) 全体指導の中で理解が難しい児童に対して個別の指導を行う。</p> <p>(発) 既習学習を取り入れた文章問題の作成などを行うことによって、演算決定能力を養うようにする。</p>
2年	<p>○2位数-1, 2位数(繰り下がりあり、空位あり、欠位あり)のひき算の筆算のしかたは概ね理解できたが、定着が十分とはいえなかった。</p> <p>○「水のかさ」「長さ」の単位の換算と計算の指導において、具体的操作を取り入れた授業の充実を図ったが、理解させ定着を図ることが十分とは言えなかった。</p>	<p>○筆算が理解しやすいように、操作活動を取り入れたり、繰り返し練習をさせたりする。</p> <p>○身近な長さや水のかさに関心をもたせ、ブロックやリットル升など具体物を視覚的に活用して長さを理解させ、長さやかさの量感を豊かにする。</p>	<p>(補) 全体指導の中で理解が難しい児童に対して個別の指導を行う。</p> <p>(補) 量と測定に関しては、操作活動を増やしていろいろなものを測る経験をさせる。</p> <p>(発) 計算に関しては、計算の仕方の工夫を友達に説明したり、加法と減法の相互関係に着目していろいろな考え方をしたりするように助言・指導する。</p> <p>(発) 量と測定に関しては水のかさ・長さを実際に測る際に、異なる単位で見当を付けたたり、結果をいろいろな単位で表現するように指導する。</p>
3年	<p>○「時刻と時間のめ方」や「長いもの長さの経験が少なかったり、抽象的な理解が進まない児童がいた。除法や余りの意味が、計算に力を入れないで、文章題に取り組まなかった。</p>	<p>○日常生活の中から身近な場面を取り上げ、具体的に考える時間を設けたり、実測する。図、半具体物を使った除法の余りや活動の意味を理解し、文章や式などを用いて自ら式を立てて表現する。</p>	<p>(補) 時間や長さについての見通しがもたれにくい場合は、模型時計や数直線、まきじゃくなどを用いて具体的な操作を増やして指導する。</p> <p>(補) なぜわり算なのか問題解決の過程を発表させる。(ペア、全体)</p> <p>(発) 等分除と包含除を統合してとらえ、おはじきや図、式を用いて表現させる。また考えや予想、根拠などを明確にして書いたり話したりできるように指導する。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○「植物の育ち方」では、観察記録の取り方の指導が必要である。 ○「昆虫を調べよう」では、実際にモンシロチョウの幼虫が成虫まで育つ時間と割り当て時間が合わず授業中での継続的な観察に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科の経験を生かすとともに、客観的な事実に基づく科学的なものの見方、考え方からの記述が十分できるように、 <ul style="list-style-type: none"> ・似ていること、違うことを見比べる ・育ち方を振り返る ○昆虫、植物の飼育・栽培は、関心・意欲をもたせて根気よく世話や観察ができるよう、担任との連携を図りこまめに支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> (補)自然事象や生物環境など、実物を比較しながら、理解できるようにさせる。 (発)生物教材は実物を育てたり、手に取って見せたりさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもった実験や観察を行わせることが課題である。 ○実験や観察などの視点の与え方を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○原因と結果の関係付けをはっきりさせるようにする。「予想」→「結果」→「考察」というように、順を追ってまとめられるようにする。 ○ノート指導を通して問題解決学習の過程を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> (補)まとめの表現活動やものづくりの活動の中で、基礎的な内容を再確認させる。 (発)学んだことを生かしたおもちゃや道具作りを工夫させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○実験器具等の扱い方の指導が十分とはいえない。 ○実験・観察の記録の取り方の指導が必要である。 ○実験結果と結論との違いは追究の過程で曖昧にならないように指導する。 ○授業の中で児童が考える場面が十分に確保されていなかったり、考察についての指導が十分に行われていなかったりすることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数の実験グループで、どの子も器具を扱える機会を多くする。 ○問題解決の型をノート指導を通して身に付けるようにする。 (内容) ①調べること(課題の明確化) ②予想とその理由(生活経験から) ③実験の方法 ④結果 ⑤結論 ⑥もっと調べたいこと ⑦自己評価 ○観察記録の時間を十分とり、観察の視点を適切に示す。 ○児童一人一人の考察を全体や小グループで話し合う時間を確保し他の児童の考え方を学んだり考え方を振り返ったりして、考察する力を育てていく。 ○発展につながるように「もっと調べたいこと」が書けるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> (補)つまずきの原因を探り、条件などを整理して繰り返し観察・実験をさせる。 (発)学習したことをもとにさらに調べたいことを児童が立てた実験計画にそって調べさせる。 (発)学んだことを生かしたおもちゃや道具作りを工夫させる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験の計画を立てた後に条件設定について指導が十分にできていなかったことが考えられる。 ○実験や観察の記録を工夫してとれるような指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験器具の扱い方をその都度、指導する。 ○児童一人一人の考察を全体や小グループで話し合う時間を確保し他の児童の考え方を学んだり考え方を振り返ったりして、考察する力を育てていく。 ○何を調べるための実験や観察なのかを児童に把握させる。 ○表やグラフなどを多く活用して記録させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> (補)つまずきの原因を探り、規則性などを推論しながら、繰り返し観察・実験をさせる。 (発)学習したことをもとにさらに調べたいことを児童が立てた実験計画に沿って調べさせる。